西銘　成吉　にしめ　せいきち

1941 年(昭和 16 年) 八重山与那国島に生まれる。

77 歳(2018 年時)。祖父の代に沖縄本島久高島から与那国に寄留した 3 代続く海人である。

1951 年水産高校中退し、与那国運搬船・巴丸の炊事係から船長を勤める。1960 年 19 歳には突き船、23 歳にはサンゴ漁に従事、尖閣諸島でも操業。

1966 年 26 歳で、与那国譜久山海運の冷凍工場長として、カジキの島外流通・販売に勤め、傍ら自ら突き船を持ち、突き手としてカジキ突きに励む。1970 年 29 歳で、一本釣船を新造して、突ん棒、深海一本釣り、底延縄等を行う。

1978 年 37 歳には、沖縄県漁連の市場担当となり、県産魚を飛行機で全国市場に送り出すなどして、県の水産振興に寄与する。

1981 年 40 歳で、沖縄県近海鮪船組合に招聘され、県マグロ船のグアム、パラオ、ヤップ島など海外操業の道を切り開くなど、県マグロ漁業の発展に大きく貢献する。

1996 年 55 歳で退職し、水産加工会社経営の傍ら、沖縄の宝は水産資源との信念のもとに、水産資源の開発研究に専念する。永年の経験と研究成果から、沖縄の一番の宝はサンゴとの結論に達する。

沖縄自らの力で、サンゴ漁を再興させ、沖縄にサンゴ産業を育て上げることが自分の夢であり、国や県に、沖縄のサンゴ漁の重要性を認識し、サンゴ産業育成を呼びかけている。

目　　次

奮闘記 前編（与那国時代）

与那国　寄留民の島　祖父たちのこと ・・・・・・・・・・・・ 1
与那国航路巴丸に乗る　船長代理に ・・・・・・・・・・・・・ 5
突き船徳栄丸　尖閣へ　カジキ突き ・・・・・・・・・・・・・・・ 8
サンゴ船、共進丸に乗り　一番ジョー ・・・・・・・・・・・・・13
与那国海運工場長に　突ん棒栄える ・・・・・・・・・・・・・・22
仕事辞め、突き船長栄丸で カジキ突く ・・・・・・・・・・・・26

奮闘記 後編（沖縄からミクロネシアへ）

船新造し 尖閣で 突棒、延縄、曳縄する ・・・・・・・・・・・34
県漁連市場担当　飛行機で　魚を全国へ ・・・・・・・・・42
県近海鮪組合を立直す　ミクロネシアに着目・・・・・・・・46
2 つの出会い（ベトナム難民と石原慎太郎）・・・・・・・・・51
沖縄一番の宝はサンゴ　密漁されている ・・・・・・・・・・56
漁民に大損害　サンゴ網漁　早めに許可を ・・・・・・・・61

※参考資料

新聞報道 1～3（サンゴ漁関係）・・・・・・・・・・・・・・・・・・68